

【論文】

東京高等商業学校の蔵書構成の変遷

杉岳志（一橋大学附属図書館研究開発室）

はじめに

日本の図書館界では近年、「蔵書構成」が注目を集めている。安井一徳によると、2005年から2010年までの6年間に蔵書構成の特集を組んだ図書館関係誌は、主なもので8誌に上るといふ¹。

特集の内容から推察するに、蔵書構成に対する関心は概ね現在及び将来の蔵書の構成にあり、過去における蔵書の構成やその形成過程に対する関心は高くはないようである。しかし、各館の蔵書が歴史的にどのように構築されてきたのかという点は、現在の蔵書構成に大きくかかわっている。現在の蔵書が過去に受け入れてきた書籍の集積である以上、将来の蔵書構成を構想する前提として、蔵書形成過程に対する理解を深める必要があるだろう。

大学図書館の蔵書を対象とする歴史的な研究は、東京帝国大学成立期の蔵書を扱った高野彰²や東京帝国大学心理学研究室図書室の蔵書を扱った河村俊太郎³らによって着実に進められてきた。その一方で、東京帝大とともに近代日本のエリート層形成に寄与した他の帝国大学や官立大学、私立大学における蔵書形成過程の解明は、大きな課題として残されている。

一橋大学の蔵書構成の特徴⁴や特殊コレクション収集の経緯⁵は、これまでも論じられてきた。したがって、一橋大学の蔵書に関する歴史的な考察が存在しないわけではない。しかし、一般書を対象とする歴史的な考察がなされたことは、管見の限りないようである⁶。そこで本稿では、一橋大学の前身である高等商業学校・東京高等商業学校の蔵書目録を手掛かりに、当時の蔵書構成について考察を加えることにしたい。

1. 分析の対象とする蔵書目録

分析作業に先立ち、分析の対象とする蔵書目録について確認しておこう。

高等商業学校は、森有礼が開設した商法講習所を源流とする東京商業学校が東京外国語学校を事実上併合した後、東京商業学校から改称して誕生した。東京商業学校と東京外国

語学校の合併は明治 18 (1885) 年 9 月、東京商業学校から高等商業学校への改称は同 20 (1887) 年 10 月のことである。こうした経緯から、高等商業学校の蔵書は (1) 合併前の東京商業学校の旧蔵書、(2) 東京外国語学校の旧蔵書、(3) 東京商業学校と東京外国語学校の合併後に収蔵された蔵書という三つの蔵書群で構成されている。

高等商業学校・東京高等商業学校の蔵書目録の中でもっとも時代をさかのぼるのは、高等商業学校への改称から 2 か月を経た明治 20 (1887) 年 12 月時点の調査結果を掲載する『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』(請求記号 Aa:10:M20) および『高等商業学校洋書及器械目録』(Aa:59) である。編纂の経緯を示す資料はこれまでに見出していないが、高等商業学校の発足に合わせて編纂されたと考えるのが妥当だろう。

この後、和漢書の目録は『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』(Aa:10:M35) が明治 35 (1902) 年頃、『東京高等商業学校和漢書目録』(Aa:10:M38) が明治 38 (1905) 年、『東京高等商業学校図書館和漢図書分類目録』(Aa:10:M42) が明治 42 (1909) 年に編纂された。このうち、明治 38 年の『東京高等商業学校和漢書目録』は分類別ではなく書名のアイウエオ順で蔵書が配列されているため、本稿の分析対象から外すこととした⁷。

洋書の蔵書目録は和漢書のものよりも数が少なく、明治 20 (1887) 年の『高等商業学校洋書及器械目録』と明治 40 (1907) 年の *Catalogue of Foreign Books* (Aa:165) の 2 点しかない。この他、明治 42 (1909) 年には後者の補遺として *Catalogue of Foreign Books Supplement 1 and Matsumoto Bunko* (Az:299) が編纂されているが、本稿では考察の対象に含めることができなかった。

最後に、全体にかかわる留意点に触れておく。

1 点目は重複掲出について。書籍を探すという目的を満たすため、一部の目録は積極的に重複掲出を行っている。一例を示すと、明治 35 (1902) 年頃に編纂された『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』では、『甘雨亭叢書』に収録された『赤穂義人録』が「第 5 門 地理及歴史」と「第 13 門 雑書」に掲載されている。タイトル数や冊数をカウントする際にはこのようなケースを二重にカウントしないよう心掛けたが、見落としなどにより数値に多少の誤差が生じている可能性は否定できない。

2 点目はタイトル数の数え方について。親子関係にある書誌は子書誌を採用すべきところであるが、本稿で取り上げる目録には情報に精粗があり、親子関係にある書誌の取り方が一貫していない。そこで混乱を避けるため、本稿ではタイトル数はすべて親書誌でカウントすることとした。したがって、たとえば『二十一史』は 21 点ではなく 1 点とカウント

している。

3 点目は複本について。本稿で取り上げる目録の中には、所蔵部数の情報を掲載しているものとしていないものがある。蔵書の割合を正確に計算するには複本もカウントすべきであるが、数字に一貫性を持たせるため、複本はカウントしないこととした。

4 点目は朝鮮語の書籍について。和漢書の目録は、朝鮮語の書籍の目録を付録として巻末に掲載している。資料として作成した表では、分類の第一区分の一つとして「朝鮮書」「韓書」（名称は各目録による）を設定した。

5 点目はロシア語の書籍について。本稿が分析の対象とした洋書の目録は、いずれもロシア語の書籍を掲載していない。したがって、本稿が提示する洋書のタイトル数・冊数やそれぞれの割合は、ロシア語の書籍を除いた数字である。

2. 和漢書の蔵書構成の変遷

2.1. 『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』（明治20（1887）年）

『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』では「経済類」から「雑書類」まで18の分類項目が設けられており、そこに朝鮮書を加えると分類の数は全部で19となる〔表1〕。各分類の割合をみると、タイトル数では「雑書類」（16.1%）・「史伝類」（13.8%）・「地理物産類」（8.9%）・「法規類」（8.8%）・「文章詩賦類」（8.5%）の順、冊数では「史伝類」（33.8%）・「経子类」（11.1%）・「字書類」（9.3%）・「文章詩賦類」（7.3%）・「雑書類」（7.0%）の順となっている。「経済類」はタイトル数7.3%（19分野中6番目）・冊数3.9%（19分野中8番目）、「簿記類」はタイトル数2.8%（19分野中11番目）・冊数0.7%（19分野中17番目）であり、高等商業教育を掲げる学校の蔵書としてはやや寂しい数字となっている。

高等商業学校発足時の和漢書の蔵書は、かなりの部分が「史伝類」や「経子类」の書籍で占められていた。両分野の冊数を合計すると、全体の半数に近い44.9%となる。複本を計上していないので、両分野の書籍が実際に書架に占める割合はこの数字から前後することになるが、割合が大きかったことは間違いないだろう。

高等商業学校は何故、高等商業学校という名には似つかわしくない「史伝類」や「経子类」の書籍を多数所蔵していたのだろうか。この問いに答えるには、この目録が編纂された時点での蔵書がどのようにして形成されたのかを明らかにしなくてはならないが、高等商業学校の蔵書を構成する（1）合併前の東京商業学校の旧蔵書（2）東京外国語学校の旧蔵書（3）東京商業学校と東京外国語学校の合併後に収蔵された蔵書のうち、（1）と（2）

は和漢書目録・図書原簿とも存在が確認できず、来歴を記録で裏付けることが困難である。

このような状況においては、1点ごとに押された蔵書印が来歴をたどる手掛かりとなる。当該期の蔵書印は、①「農商務省圖書」②「東京外国語学校圖書」③「東京商業学校圖書印」④「高等商業学校圖書印」に大別することができ、①「農商務省圖書」印が押されていれば(1)、②「東京外国語学校圖書」印が押されていれば(2)、④「高等商業学校圖書印」しか押されていないければ(3)であると判断できる。

文部省所管時代の蔵書印と考えられる③「東京商業学校圖書印」がもっとも古い学校蔵書印である蔵書については、(1)・(3)いずれの可能性もあり、蔵書印だけで来歴を判定することができない。東京商業学校は明治18(1885)年5月14日に管轄が農商務省から文部省へと移り、同年9月22日に東京外国語学校と合併、同20(1887)年10月5日に高等商業学校へと改称された。したがって、明治18年5月14日～同年9月21日の間に収蔵されていれば合併前、明治18年9月22日～同20年10月4日の間に収蔵されていれば合併後に収蔵された書籍ということになる。

「東京商業学校圖書印」が最古の学校蔵書印である蔵書であっても、次の二つのケースのいずれかに当てはまる場合は、合併後に収蔵されたと判断できる。まず、刊行年が明治18年10月以降であれば、同年9月の合併よりも後に収蔵されたことが確実である。次に、明治18年9月以前に刊行された書籍であっても、納本日が明治18年10月以降のものは合併後の収蔵書となる。明治20年以降に納本された書籍の巻末には納本日と価格が記入されており、合併後に収蔵された本であることが判明する。

以上を踏まえ、「史伝類」に分類された書籍の蔵書印を確認し、各書籍の来歴を割り出した。次の〔表2-1〕は、(1)・(2)・(3)および、(1)・(3)のいずれか判断のつかない東京商業学校旧蔵書、そして現在は所在不明となっている書籍の割合を一覧にしたものである。表から、高等商業学校が所蔵する和漢書の「史伝類」は、その多くがかつて東京外国語学校の蔵書であったことが明らかである。一方「経子類」というと、14タイトル・871冊のすべてが東京外国語学校の旧蔵書であった。高等商業学校が「史伝類」「経子類」の書籍を多数所蔵していたのは、それらを東京外国語学校から引き継いだためであった。

では、「経済類」はどうだったのだろうか〔表2-2〕。「史伝類」に比べれば東京商業学校から引き継いだ蔵書の比率が上がるとはいえ、「経済類」でも東京外国語学校から引き継いだ書籍がもっとも大きな蔵書群である。東京商業学校が高等商業教育機関へとその性格を転じる上で、東京外国語学校との合併がどれほど大きな意義を持っていたかがうかがい知

れよう。

以上、明治20(1887)年の『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』において「史伝類」「経子類」「経済類」に分類された書籍について、個々の来歴を検証した。検証の対象は全19分野(朝鮮書を含む)中の3分野に過ぎないが、東京外国語学校から引き継いだ蔵書が発足当初の高等商業学校の蔵書の性格を大きく規定していたとひとまず結論してよいだろう。

それではこの時の蔵書構成がこの後どのような変遷をたどるのか、引き続き検討していくことにしよう。

2.2. 『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』(明治35<1902>年頃)

最初に編纂された明治20(1887)年の『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』が活字で印刷された目録であるのに対し、その次に編纂された『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』は毛筆書きの目録である。この目録には序文や凡例がなく、なぜ毛筆書きなのか、いつの調査に基づくデータなのかといった情報が明示されていない。内題に「東京」の2文字がないことから推測すれば、この目録は、高等商業学校が東京高等商業学校へと改称する明治35(1902)年4月よりも前に編纂されたのだろう⁸。また、所蔵資料の情報の追加や削除が行われていること、掲載された書目の出版年の下限が明治39(1906)年であることから、本目録の掲載情報は明治39(1906)年に至るまで更新されたと考えられる。そこで本稿では、本目録を明治39(1906)年時点での蔵書構成を示す資料として使用する。

目録の中身を整理した表が〔表3〕である。表から読み取れる点を列挙しよう。まず、「歴史及伝記」と「経子・心理・論理及倫理」は、19年前と同様に大きな割合を占めており、前者の冊数は全体の20.6%、後者の冊数は8.3%に上る。しかし冊数の実数をみると、両者ともさほど変化していない(後者は明治20<1887>年の「修身類」「経子類」「哲学類」の合計と比較)。「類書・叢書・随筆其他」は冊数が大幅に増加しているが、これは『古今図書集成』1,628冊・『淵鑑類函』200冊・『三才図会』160冊を収蔵したためである。

タイトル数・冊数ともに大きな伸びを示したのは経済関係と地理・産業である。分類の編成替えがあるため単純な比較はできないが、明治20(1887)年に「経済類」の割合がタイトル数7.3%、冊数3.6%であったのに対し、明治39(1906)年には「商業」と「経済」の合計の割合がタイトル数17.7%、冊数6.7%となっている。タイトル数の割合は「地理及歴史」に次いで2番目であり、高等商業学校の名にふさわしい蔵書構成となってきたこと

がうかがえる。地理・産業については、明治20(1887)年に「地理物産類」の割合がタイトル数8.9%、冊数3.0%であったのに対し、明治39(1906)年には「地理」「紀行」「図及説明書類」(地図や測量図)「産業」の合計の割合がタイトル数18.0%、冊数10.7%にまで膨らんでいる。地理・産業の分野の資料が積極的に収集されたのは、各地の物産や商品に関する知識が重視されたためだと考えられる。

2.3 『東京高等商業学校図書館和漢図書分類目録』(明治42(1909)年)

『東京高等商業学校図書館和漢図書分類目録』は、明治20(1887)年の『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』以来、22年ぶりに刊行された和漢書の蔵書目録である。本目録は学外者の利用も想定して編纂されたのだろうか、複数の図書館で所蔵が確認でき、国立国会図書館によって電子画像も公開されている⁹。

この目録でまず注目されるのは総タイトル数と総冊数で、それぞれ明治39(1906)年の『高等商業学校和漢図書目録 附朝鮮書』から1.5倍ほどに増えている〔表4〕。明治39(1906)年の目録では「報告及一覧」と「雑誌及新聞」の冊数が不明のため、実際にはそれほどの増加とはならないが、3年で数字が急増していることは間違いない。これだけの図書を一気に購入するだけの予算を組めたとはいえにくく、何らかの理由で数字が増えたと思われる。目録の取り方が変更された、明治42(1909)年2月に開館した新閲覧所への配架に合わせて念入りな調査が行われた、教員の手元に置かれていた図書が図書館に収蔵されたなどの理由が考えられるが、現時点では調査が及ばず、詳細は不明である。

分類上で指摘すべきは次の3点である。

まず、「簿記」「商業」「産業」「経済」「報告類」が統合され、新たに「商業及経済」という門が設けられた。次に、「数学」と「理学」が統合された。「簿記」と「数学」はタイトル数・冊数とも明治39(1906)年の数字とほとんど変わりがなく、独立した門として維持するには割合が小さくなっていた。3点目は「社会学」が目として新設された点である。冊数はわずかであるが、新規の学問分野に図書館が対応していたことが確認できる。

割合は、「商業及経済」が部門別タイトル数でトップに立った。とはいえ、明治39(1906)年の「簿記」「商業」「産業」「経済」「報告類」の合計が33.0%であるから、全体の中で占める割合はほぼ同じである。大きな伸びを示したのは「統計学及統計」で、タイトル数は1.5%から6.2%に増えている。6.2%という数字は「歴史・伝記」の8.4%に次ぐ2番目であり、東京高等商業学校が統計書の収集に力を入れていたことが読み取れる。統計書は学生

への商業教育よりも研究への利用を目的として収集されたと考えられ、実学の教育機関から大学に匹敵する研究機関への脱皮を示す指標として注目される。

3. 洋書の蔵書構成の変遷

3.1. 『高等商業学校洋書及器械目録』(明治20(1887)年)

『高等商業学校洋書及器械目録』は英書・仏書・独書・蘭書・諸器械の5部構成で、英仏独蘭の各部に経済類から雑書類まで17の分類が設けられている¹⁰。[表5-1]がそれぞれのタイトル数と言語別・分類別の割合、[表5-2]が冊数と言語別・分類別の割合である。

分類項目は和漢書の分類方法を流用しており、洋書の分類に適切なものとは言い難い。洋書の蔵書目録ではまず目にする事のない「経子類」(英語の名称は“Chinese Classics”)という項目まで立てられているが、所蔵するのは英語の1点1冊のみである。このような項目立てとなったのは、この洋書目録が和漢書の目録と同時期に編纂されたためだろう。

言語は英語がタイトル数782点・冊数1,472冊で共に全体の7割を超え、多数を占めている。これら英語の書籍はどのような来歴を持っているのだろうか。今回は洋書の蔵書印にまで調査が及ばなかったが、その多くは、(1)合併前の東京商業学校の旧蔵書、(2)東京外国語学校が明治14(1881)年以降に収蔵された旧蔵書、(3)東京商業学校と東京外国語学校の合併後に収蔵された蔵書、のいずれかであると考えられる。(2)で明治14(1881)年以降と限定したのは、東京外国語学校の英語蔵書は英語科が東京英語学校として明治7(1874)年に分離独立した際に移管されており¹¹、明治14(1881)年の東京外国語学校の蔵書目録(請求記号Aa:31:M14)に掲載された英語の書目は仏語・独語よりも少なかったからである。今後は現物の蔵書印を分析し、継承元の比率を割り出してみたい。

続いて分類別の割合をみてみよう。タイトル数では「語学類」(17.4%)・「字書類」(10.1%)・「経済類」(9.9%)・「数学類」(9.4%)・「地理物産類」(9.0%)の順、冊数では「字書類」(25.0%)・「語学類」(17.4%)・「地理物産類」(11.6%)・「経済類」(6.0%)・「雑書類」(5.5%)の順となっている。タイトル数・冊数ともに「語学類」と「字書類」が1位・2位を占めており、両者を合わせた語学関係の書籍の割合はタイトル数で3割弱、冊数で4割強に上る。

割合についてはもう1点、「数学類」の割合の大きさを指摘しておこう。明治20(1887)年の時点で和漢書の数学書はタイトル数5.4%、冊数2.7%であったのに対し、洋書はタイトル数9.4%、冊数5.5%と2倍ほどの割合である。和漢書の数学書の多くは訳書であるが、

学生たちはそれだけではなく、外国語の原書を用いて商業数学を学んでいたことがわかる。

3.2. *Catalogue of Foreign Books* (明治40 (1907) 年 1907 年)

明治20 (1887) 年からちょうど20年後の明治40 (1907) 年、東京高等商業学校にとって2冊目の洋書蔵書目録、*Catalogue of Foreign Books* が編纂された。前回の目録は分類と書名に日本語訳が付されていたが、この目録は日本語が一切用いられていない。また、言語別の部門分けは廃され、言語に関係なく主題による分類がなされた。

本目録の分類を一覧にして割合を示した〔表6〕について、2点補足しておこう。まず、本目録ではタイトル数しかカウントしていない。これは、目録から冊数を読み取るのが困難なためである。次に、考察の手掛かりとして、明治42 (1909) 年の『東京高等商業学校図書館和漢図書分類目録』に掲げられた門名・部名を、おおよそ対応するであろう部名の隣に記した。項目名は必ずしも一対一対応しておらず、たとえば“Natural Science”には「理化学」「博物学」「地質学」「気象学」を対応させている。

明治20 (1887) 年の段階では洋書に和漢書の分類が適用されていたが、この目録では独自の分類が設定されている。大枠は明治39 (1906) 年の和漢書目録及び明治42 (1909) 年の和漢書目録と類似しながらも、工学と産業、法律と政治をそれぞれ同一の門とする点に特徴がみられる。他館の分類との比較は今後の課題であるが、和漢書・洋書とも、自館の蔵書構成に合わせて独自に設定されたようである¹²。

明治20 (1887) 年の洋書目録と比較すると、社会科学の割合が増す一方で自然科学の割合が減り、人文学は一定の割合を維持していることが判明する。割合が大きく伸びているのは第1門 (商業・経済) と第6門 (法律・政治)、ほぼ変わらないのは第4門 (歴史・地理) と第8門 (哲学・教育・芸術)、低下しているのは第2門 (辞書)・第5門 (語学・文学)・第7門 (数学)・第9門 (科学) である。社会科学を中心に人文学にも目配りをした蔵書構成は今日の一橋大学へとつながる特徴であり、そうした特徴は2冊の洋書目録が作成された19世紀末～20世紀初頭に形成されたと指摘することができる。

おわりに

本稿は、高等商業学校・東京高等商業学校の蔵書目録を用いて、同校の蔵書構成の変遷を考察した。考察によって得られた成果をまとめると、次の通りとなる。

- ① 高等商業学校発足直後の和漢書蔵書は、「史伝類」や「経子類」といった高等商業教

育とは直接結びつかない分野の書籍が大きな割合を占めていた。高等商業学校がこうした分野の書籍を多数所蔵していたのは、それらを東京外国語学校から継承したためであった。高等商業教育に関わる「経済類」の書籍についても、商法講習所の流れを汲む東京商業学校から継承したものよりも東京外国語学校から継承したものの方が多かった。

- ② その後、社会科学分野の書籍が重点的に収集され、明治42（1909）年には「商業及経済」が和漢書の部門別で最大の割合となった。また、統計書が積極的に収集されたが、これは実学の教育機関から大学に匹敵する社会科学の研究機関への変質を示す指標であると考えられる。
- ③ 洋書は、語学関係を中心とする蔵書を東京商業学校と東京外国語学校の双方から継承した。それぞれの割合の解明は今後の課題であるが、英語の書籍については前者の割合が大きいものと推測される。
- ④ 和漢書と同様、洋書の蔵書構成も20世紀初頭には社会科学を中心とするものとなった。
- ⑤ その一方で人文学の書籍も収集されており、今日の一橋大学へとつながる特徴的な蔵書構成が、19世紀末から20世紀初頭にかけて形成されたと考えられる。

今後の課題は、東京商業学校の旧蔵書と東京外国語学校の旧蔵書の割合を全分野にわたって検証することと、他の図書館との比較を行うことである。後者については、他の高等商業学校との比較を通じ、一橋の特徴を析出したいと考えている。

[附記]

本稿は、2013年8月19日から22日にかけて翰林大学校（韓国）で開催された第16回日韓歴史共同研究シンポジウムの報告原稿を改稿したものである。コメンテーターを務めてくださった金容徳先生ならびに貴重なコメントを賜った皆様に記して感謝申し上げます。

本稿は、平成24年度科学研究費補助金基盤研究(C)「20世紀前期の帝国日本における実学実践と教養主義をめぐる文化研究」（課題番号 24520746、研究代表者：阿部安成）の成果の一部である。

表1 高等商業学校蔵書構成（和漢書、明治20〈1887〉年）

番号	分類	タイトル数	割合	冊数	割合
1	経済類	71	7.3%	304	3.9%
2	法規類	85	8.8%	477	6.1%
3	数学類	52	5.4%	210	2.7%
4	簿記類	27	2.8%	56	0.7%
5	理科類	67	6.9%	234	3.0%
6	史伝類	133	13.8%	2655	33.8%
7	地理物産類	86	8.9%	253	3.2%
8	修身類	24	2.5%	98	1.2%
9	経子类	14	1.4%	871	11.1%
10	哲学類	5	0.5%	9	0.1%
11	教育類	26	2.7%	51	0.6%
12	語学類	20	2.1%	65	0.8%
13	文章詩賦類	82	8.5%	571	7.3%
14	書画及図類	25	2.6%	86	1.1%
15	字書類	36	3.7%	732	9.3%
16	小説類	16	1.7%	145	1.8%
17	類叢書類	12	1.2%	354	4.5%
18	雑書類	156	16.1%	553	7.0%
19	朝鮮書	30	3.1%	139	1.8%
	計	967	100.0%	7863	100.0%

表2-1 蔵書印にみる高等商業学校蔵書の来歴（和漢書「史伝類」）

来歴	タイトル数	割合	冊数	割合
(1) 東京商業学校旧蔵書（合併前）	12	9.0%	118	4.4%
(2) 東京外国語学校旧蔵書	71	53.4%	1691	63.7%
(3) 合併後に収蔵	19	14.3%	261	9.8%
東京商業学校旧蔵書（合併前後不明）	21	15.8%	274	10.3%
所在不明	10	7.5%	311	11.7%
計	133	100.0%	2655	100.0%

表2-2 蔵書印にみる高等商業学校蔵書の来歴（和漢書「経済類」）

来歴	タイトル数	割合	冊数	割合
(1) 東京商業学校旧蔵書（合併前）	12	16.9%	37	12.2%
(2) 東京外国語学校旧蔵書	27	38.0%	155	51.0%
(3) 合併後に収蔵	15	21.1%	20	6.6%
東京商業学校旧蔵書（合併前後不明）	11	15.5%	22	7.2%
所在不明	6	8.5%	70	23.0%
計	71	100.0%	304	100.0%

表3 東京高等商業学校蔵書構成（和漢書、明治39（1906）年）

番号	門番号	門名	部番号	部名	目番号	目名	タイトル数	割合	門別タイトル数	割合	冊数	割合	門別冊数	割合	
1	1	簿記	1	官庁簿記			12	0.4%			19	0.1%			
2			銀行簿記			20	0.7%			33	0.2%				
3			商業簿記等			58	1.9%			90	3.0%	76	0.6%	128	0.9%
4	2	商業	1	総記			174	5.7%			336	2.5%			
5			銀行			47	1.6%			57	0.4%				
6			為換			6	0.2%			6	0.0%				
7			交通			69	2.3%			83	0.6%				
8			保険			11	0.4%			11	0.1%				
9			商人録			22	0.7%			329	10.9%	22	0.2%	515	3.8%
10	3	字書及韻府					68	2.2%	68	2.2%	564	4.2%	564	4.2%	
11	4	工学・建築 及諸芸	1	工学・建築 及測量			26	0.9%			37	0.3%			
12			2	美術	1	総記		13	0.4%			76	0.6%		
13					2	書画・ 彫刻等		42	1.4%			235	1.7%		
14					3	音楽		10	0.3%			26	0.2%		
15	3	体操・兵事 及遊戯				41	1.4%	132	4.4%	116	0.9%	490	3.6%		
16	5	地理及 歴史	1	総記			16	0.5%			19	0.1%			
17			2	地理			192	6.3%			474	3.5%			
18			3	紀行			26	0.9%			57	0.4%			
19			4	歴史及伝記			239	7.9%			2779	20.6%			
20			5	図及説明書類			138	4.6%		611	20.2%	267	2.0%	3596	26.6%
21	6	法規類				286	9.4%	286	9.4%	926	6.9%	926	6.9%		
22	7	文学	1	語学			52	1.7%			131	1.0%			
23			2	文章・歌詩類			66	2.2%			501	3.7%			
24			3	尺牘			50	1.7%			129	1.0%			
25			4	小説類			14	0.5%		182	6.0%	101	0.7%	862	6.4%
26	8	数学	1	総記			6	0.2%			6	0.0%			
27			2	算術及代数			55	1.8%			186	1.4%			
28			3	幾何・三角術等			28	0.9%			66	0.5%			
29			4	度量衡			9	0.3%		98	3.2%	11	0.1%	269	2.0%
30	9	哲学及 教育	1	経子・心理・ 論理及倫理			84	2.8%			1115	8.3%			
31			2	教育			65	2.1%	149	4.9%	143	1.1%	1258	9.3%	
32	10	産業	1	総記			48	1.6%			279	2.1%			
33			2	農業及山林等			70	2.3%			154	1.1%			
34			3	水産及漁業			23	0.8%			138	1.0%			
35			4	製造及工芸			48	1.6%		189	6.2%	80	0.6%	651	4.8%
36	11	政治・経済 及統計	1	政治			68	2.2%			190	1.4%			
37			2	経済			205	6.8%			391	2.9%			
38			3	統計			44	1.5%		317	10.5%	153	1.1%	734	5.4%
39	12	理学	1	総記			5	0.2%			33	0.2%			
40			2	理学	1	物理		38	1.3%			91	0.7%		
41					2	化学		31	1.0%			86	0.6%		
42					3	星学及 曆書		6	0.2%			9	0.1%		
43			3	博物	1	総記		2	0.1%			12	0.1%		
44					2	植物		26	0.9%			94	0.7%		
45					3	動物		10	0.3%			22	0.2%		
46					4	生理及 医書		33	1.1%			99	0.7%		
47					5	鉱物・ 地質・ 人類及 地震学		100	3.3%		251	8.3%	304	2.3%	750
48			13	雑書	1	類書・叢書・ 随筆其他			77	2.5%			2608	19.3%	
49	2	報告及一覽					186	6.1%			不明	-			
50	3	雑誌及新聞					34	1.1%		297	9.8%	不明	-	2608	19.3%
51	-	朝鮮書					28	0.9%	28	0.9%	156	1.2%	156	1.2%	
計							3027	100.0%	3027	100.0%	13507	100.0%	13507	100.0%	

表4 東京高等商業学校蔵書構成（和漢書、明治42（1909）年）

番号	門 番号	門名	部 番号	部名	目 文字	目名	タイトル 数	割合	門別タイ トル数	割合	冊数	割合	門別 冊数	割合	
1	1	商業及 経済	1	簿記			117	2.6%			157	0.9%			
2			2	商業				131	2.9%			175	0.9%		
3			3	商品・産業				143	3.1%			447	2.4%		
4			4	経済史				53	1.2%			206	1.1%		
5			5	経済学				276	6.0%			490	2.7%		
6			6	財政				93	2.0%			189	1.0%		
7			7	貨幣・銀行				89	2.0%			139	0.8%		
8			8	保険				26	0.6%			26	0.1%		
9			9	税関・倉庫				35	0.8%			43	0.2%		
10			10	株式・ 商品取引				19	0.4%			19	0.1%		
11			11	運輸・交通				128	2.8%			186	1.0%		
12			12	報告類				260	5.7%			619	3.4%		
13			13	雑書				131	2.9%	1501	32.9%	180	1.0%	2876	15.6%
14	2	法律	1	総記・雑書			38	0.8%			145	0.8%			
15			2	公法			59	1.3%			147	0.8%			
16			3	私法			101	2.2%			186	1.0%			
17			4	国際法 ・条約			49	1.1%			82	0.4%			
18			5	法規類			204	4.5%	451	9.9%	777	4.2%	1337	7.3%	
19	3	政治・社会 及統計	1	政治・外交			39	0.9%			102	0.6%			
20			2	社会学			17	0.4%			26	0.1%			
21			3	統計学 及統計			283	6.2%	339	7.4%	317	1.7%	445	2.4%	
22	4	歴史及 地理	1	歴史・伝記			383	8.4%			3808	20.7%			
23			2	地理			211	4.6%			521	2.8%			
24			3	地図			163	3.6%			739	4.0%			
25			4	地質図			81	1.8%	838	18.4%	311	1.7%	5379	29.2%	
26	5	哲学・教育 及芸術	1	哲学			44	1.0%			74	0.4%			
27			2	経子類			31	0.7%			1116	6.1%			
28			3	教育			127	2.8%			283	1.5%			
29			4	美術・諸芸			103	2.3%	305	6.7%	381	2.1%	1854	10.1%	
30	6	数学・工 学及理学	1	数学・ 度量衡			121	2.7%			297	1.6%			
31			2	工学			56	1.2%			83	0.5%			
32			3	理化学			82	1.8%			201	1.1%			
33			4	医学			34	0.7%			98	0.5%			
34			5	博物学			71	1.6%			190	1.0%			
35			6	地質学			120	2.6%			149	0.8%			
36			7	気象学			57	1.2%	541	11.9%	116	0.6%	1134	6.2%	
37	7	語学及 文学	1	読本・文典 ・会話			80	1.8%			164	0.9%			
38			2	小説・物語 ・詩歌			51	1.1%			390	2.1%			
39			3	文章・作文			128	2.8%	259	5.7%	636	3.5%	1190	6.5%	
40	8	辞書及 叢書類	1	辞書			110	2.4%			666	3.6%			
41			2	叢書・類書			45	1.0%	155	3.4%	2589	14.0%	3255	17.7%	
42	9	雑書及 雑誌	1	雑書			88	1.9%			276	1.5%			
43			2	雑誌	イ	経済・実業		28	0.6%			277	1.5%		
44					ロ	政治・法律		9	0.2%			89	0.5%		
45					ハ	工業・工学		7	0.2%			33	0.2%		
46					ニ	文学其他		8	0.2%	140	3.1%	38	0.2%	713	3.9%
47	-	韓書				35	0.8%	35	0.8%	249	1.4%	249	1.4%		
計							4564	100.0%	4564	100.0%	18432	100.0%	18432	100.0%	

表5-1 高等商業学校蔵書構成（洋書、明治20〈1887〉年、タイトル数）

番号	分類	英書	仏書	独書	蘭書	分類別計	割合
1	経済類	89	12	6	0	107	9.9%
2	法規類	51	2	0	0	53	4.9%
3	数学類	69	10	9	13	101	9.4%
4	簿記類	33	2	1	0	36	3.3%
5	理科類	56	5	2	2	65	6.0%
6	史伝類	37	11	11	1	60	5.6%
7	地理物産類	42	39	14	2	97	9.0%
8	修身類	6	0	2	0	8	0.7%
9	経子類	1	0	0	0	1	0.1%
10	哲学類	27	0	0	0	27	2.5%
11	教育類	5	0	0	0	5	0.5%
12	語学類	101	45	41	1	188	17.4%
13	文章詩賦類	48	5	0	0	53	4.9%
14	書画及図類	15	4	0	0	19	1.8%
15	字書類	71	21	16	1	109	10.1%
16	小説類	62	1	0	0	63	5.8%
17	雑書類	69	12	2	3	86	8.0%
	言語別計	782	169	104	23	1078	100.0%
	割合	72.5%	15.7%	9.6%	2.1%	100.0%	

表5-2 高等商業学校蔵書構成（洋書、明治20〈1887〉年、冊数）

番号	分類	英書	仏書	独書	蘭書	分類別計	割合
1	経済類	100	14	8	0	122	6.0%
2	法規類	72	4	0	0	76	3.7%
3	数学類	71	16	9	15	111	5.5%
4	簿記類	53	2	1	0	56	2.8%
5	理科類	62	5	2	4	73	3.6%
6	史伝類	45	15	15	1	76	3.7%
7	地理物産類	81	130	22	2	235	11.6%
8	修身類	6	0	2	0	8	0.4%
9	経子類	1	0	0	0	1	0.0%
10	哲学類	29	0	0	0	29	1.4%
11	教育類	10	0	0	0	10	0.5%
12	語学類	244	52	57	1	354	17.4%
13	文章詩賦類	88	6	0	0	94	4.6%
14	書画及図類	27	72	0	0	99	4.9%
15	字書類	436	28	42	2	508	25.0%
16	小説類	67	1	0	0	68	3.3%
17	雑書類	80	23	6	3	112	5.5%
	言語別計	1472	368	164	28	2032	100.0%
	割合	72.4%	18.1%	8.1%	1.4%	100.0%	

表6 東京高等商業学校蔵書構成（洋書、明治40（1907）年）

番号	門番号	門名	部番号	部名	1909年和漢書目録部名（参考）	タイトル数	割合	門別タイトル数	割合	
1	1	Commerce and Political Economy	1	Book-keeping and Accountancy	簿記	189	3.1%			
2			2	Commerce in General	商業	61	1.0%			
3			3	Currency and Banking	貨幣・銀行	216	3.5%			
4			4	Customs and Warehousing	税関・倉庫	25	0.4%			
5			5	Economic History	経済史	154	2.5%			
6			6	Insurance	保険	90	1.5%			
7			7	Political Economy	経済学	731	12.0%			
8			8	Public Finance	財政	127	2.1%			
9			9	Stock and Produce Exchanges	株式・商品取引	30	0.5%			
10			10	Transport and Communication	運輸・交通	292	4.8%			
11			11	Reports and Periodicals	報告類	160	2.6%			
12			12	Miscellaneous Works	雑書	227	3.7%	2302	37.7%	
13	2	Dictionaries and Encyclopedias	1	Dictionaries	辞書	235	3.9%			
14			2	Encyclopedias	叢書・類書	29	0.5%			
15			3	Code-books		6	0.1%	270	4.4%	
16	3	Engineering and Industries	1	Engineering	工学	55	0.9%			
17			2	Industries and Marketable Products	商品・産業	104	1.7%	159	2.6%	
18	4	History and Geography	1	History and Biography	歴史・伝記	295	4.8%			
19			2	Geography	地理	337	5.5%			
20			3	Maps and Atlases	地図	237	3.9%	869	14.2%	
21	5	Language and Literature	1	Novels, Stories, Essays and Poems	小説・物語・詩歌	249	4.1%			
22			2	Grammars, Rhetoric and Readers	読本・文典	274	4.5%			
23			3	Composition and Letter-writers	文章・作文	140	2.3%			
24			4	Conversation and Elocution	会話	113	1.9%			
25			5	Miscellaneous Works		96	1.6%	872	14.3%	
26	6	Law and Politics	1	General Works	総記・雑書	161	2.6%			
27			2	International Law	国際法・条約	51	0.8%			
28			3	Politics	政治・外交	198	3.2%			
29			4	Public Law	公法	137	2.2%			
30			5	Private Law	私法	90	1.5%			
31			6	Reports, Periodicals, etc.		8	0.1%	645	10.6%	
32	7	Mathematics	1	Elementary Mathematics	数学・度量衡	67	1.1%			
33			2	Higher Mathematics		16	0.3%			
34			3	Commercial Mathematics		46	0.8%			
35			4	Miscellaneous Works		59	1.0%	188	3.1%	
36	8	Philosophy, Education and Fine Arts			哲学・教育・美術・諸芸	229	3.8%	229	3.8%	
37	9	Sciences, Natural and Physical	1	Natural Science	理化学・博物学・地質学・	51	0.8%			
38			2	Physical Science	医書	101	1.7%			
39			3	Miscellaneous Works		14	0.2%	166	2.7%	
40	10	Sociology and Statistics	1	Sociology	社会学	83	1.4%			
41			2	Statistics	統計学及統計	68	1.1%	151	2.5%	
42	11	Reports, Periodicals and Other Publications	1	Reports		27	0.4%			
43			2	Papers and Periodicals	雑誌	20	0.3%			
44			3	Miscellaneous Works	雑書	205	3.4%	252	4.1%	
						計	6103	100.0%	6103	100.0%

- ¹ 安井一徳. 研究文献レビュー : 蔵書構成. カレントアウェアネス・ポータル.(オンライン), <http://current.ndl.go.jp/ca1734>, (参照 2014-1-31).
- ² 高野彰. “明治初期洋書教科書の発見と追跡”. 東大初期洋書教科書についての総合的研究. 月村辰雄研究代表. 月村辰雄, 2004, p. 11-21. 高野彰. 明治初期東京大学法理文学部図書館史. ゆまに書房, 2004. 高野彰. 帝国大学図書館における蔵書構築の研究. ゆまに書房, 2005.
- ³ 河村俊太郎. 蔵書構成の分析から見た東京帝国大学文学部心理学研究室図書室の研究補助機能. 日本図書館情報学会誌. 2008, 54(4), p. 223-240.
- ⁴ 豊田裕昭, 高橋菜奈子. 一橋大学附属図書館の蔵書管理とその利用 : 大学図書館ランキングにみるコア・コンピタンス. 大学図書館研究. 2007, (80), p. 1-9
- ⁵ [一橋大学編]. 一橋大学附属図書館史. 1975, 一橋大学.
- ⁶ 断片的な言及は、川崎操. “図書館沿革概説稿”. 一橋大学附属図書館史. [一橋大学編]. 一橋大学, 1975, p. 1-108 や細谷新治. 商業教育の曙. 下, 如水会学園史刊行委員会, 1991.にみられる。
- ⁷ 凡例に配列の説明はなく、このような配列を採用した理由は不明である。
- ⁸ 一橋大学附属図書館は背表紙の「東京高等商業学校和漢書分類目録」というタイトルで本目録を蔵書登録しているが、この目録が編纂されたのは東京高等商業学校と改称されるよりも前だったと考えられる。
- ⁹ 国立国会図書館. 近代デジタルライブラリー. <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/897332>, (参照 2014-1-31).
- ¹⁰ 「諸器械」の部は、物理学や化学の実験器具、測量用の器具などの目録である。
- ¹¹ 高野彰. “明治初期洋書教科書の発見と追跡”. 東大初期洋書教科書についての総合的研究. 月村辰雄研究代表. 月村辰雄, 2004, p. 18-19.
- ¹² 昭和初期の私立大学図書館では、各館独自の図書分類表が整備されていた。呑海沙織. 昭和初期の私立大学図書館における図書分類法. 資料組織化研究-e. 2010, (58), p. 16-36. (オンライン), <http://creativecity.gsc.osaka-cu.ac.jp/TS/article/view/581/504>, (参照 2014-1-31).

【論文】

東京高等商業学校の蔵書構成の変遷

杉岳志（一橋大学附属図書館研究開発室）

要旨

本稿は、一橋大学の前身である高等商業学校と東京高等商業学校の蔵書目録を利用して、両校の蔵書構成の変遷を考察したものである。高等商業学校発足当初の蔵書は東京外国語学校から継承した書籍が過半を占め、社会科学分野の書籍の割合は半分に満たなかった。その後社会科学分野の書籍が重点的に収集された結果、19世紀末から20世紀初頭には、社会科学分野を中心としながらも人文学分野にも目配りした蔵書構成という、今日の一橋大学へとつながる特徴が形成された。

キーワード

東京高等商業学校、蔵書、蔵書印、目録、一橋大学附属図書館

[Article]

Collection Development at the Tokyo Higher Commercial School Library

Sugi, Takeshi.

Research Development Office, Hitotsubashi University Library

Abstract

This article considers the collection development at the Tokyo Higher Commercial School library. At its genesis, the percentage of books in the fields of social sciences was less than 50%. This was due to the fact that a large part of the library holdings was inherited from Tokyo School of Foreign Language. By the beginning of the 20th century, the percentage had risen to more than 50%.

Keywords

Tokyo Higher Commercial School, Library Holdings, Ownership Stamp, Library Catalogue, Hitotsubashi University Library